

**自己や集団の活動のよさや課題を分析し、目指す姿に反映することを通して、  
個と集団の向上を目指す生徒の育成**

石川 哲

1 題材名 学級活動の成果と課題を分析して、学級PRプレゼンを制作しよう (3年)

2 目標

- 演劇活動<sup>\*1</sup>や日常活動のよさや課題を分析し、新たな課題を見いだしたり、活動を修正したりする活動を試行し、目指す姿につながる効果的な活動や方法を提案することができる。

3 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○ 「リーダーの思い」を自分なりにとらえ、多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行ううえで必要となることについて、行動の仕方を理解することができる。	○ 自己や集団の活動のよさや課題を分析し、次の活動に向けて解決するために話し合い、合意形成を図ることができる。 ○ 目指す姿につながるかどうかを踏まえ、学年に提案する内容を考えることができる。	○ 課題や困難な問題に直面した際に協働してそれらを克服しようと働きかけたり、方針や計画の修正を図ったりして、対応していこうとする。

4 本題材を学習する意義

当校では、全学年において体育祭(5月)・演劇発表会(9月)・音楽のつどい(11月)、各学年において東京班別学習(1学年)・台湾の旅(2学年)などの学校行事を行っている。これらの行事の計画・運営・振り返りを通して、生徒一人一人の自主性と実践力を向上させてきた。また、生徒は、学校行事や日常生活の視点から、具体的な実践事項を明示して振り返りを行い、活動のよさや課題を見いだしてきた。

1, 2年生での活動の経験を生かして、リーダーとフォロワーの役割を踏まえて行動することが求められる。一人一人がこれまでの活動と成果と課題を関連付けて自己や集団として何をするべきか具体的に考え、目指す姿に迫るための活動を行うことが大切となる。

生徒はこれまでの成功体験や失敗体験、先輩や仲間の働き掛けから、自主的・実践的な集団活動のあり方について学んでいる。最高学年として、後輩のことを考えながら全体を動

---

\*1 本校の演劇活動について

60年以上の歴史を誇り、1・2年生は学年演劇、3年生は学級演劇を行っている。演劇の上映時間は50分。生徒は、毎年5月から題材を選定して脚本を作成する。そして、道具係、照明係、衣装係などの各係に所属して全員で作り上げる。

かす行事的活動と下級生の見本となる日常活動は相互に関連しているが、生徒の中では行事と日常が乖離している場合も多い。だからこそ最高学年として様々な活動の中で運営や判断を求められる生徒たちにとって、この1年は活動の方法を学ぶ機会となる。学級という集団の中で所属意識を高め、課題を明らかにし、改善する方法を検討し、実践することは学校のみならず、社会に出たときに集団の中で改善策を検討し取り組むことにつながっていくのである。

## 5 本題材における具体的な手だて

### <手だてア>

演劇三役<sup>\*2</sup>、学年委員に、学級目標や学年目標を意識させて、思いを語らせる場を設定する。

活動のねらいを踏まえ、学級や学年集団の目指す姿を共有し、多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行ううえで必要となることを見だし、課題解決に向けて意志決定をするという資質・能力を発揮させるために行う。

学級活動の中間振り返りで合意形成した学級の目指す姿や係活動の修正を経て、さらに学級をよくしていきたい、居心地のよいまとまりのある学級にしたいと意識するようになる。意識の高まりと共に学級で行う最後の行事を成功させたい、もっと学級をよくしたいという意欲をもっている。9月に行われる演劇活動では、それぞれの役割から学級をまとめようとリーダーが「思い」を語る。また、学年委員が最高学年のあるべき姿を「思い」を込めて語る。そこから自分が学級や学年に対して何ができるのか、どのようにしたいのかを考えさせる。それらリーダーの「思い」を受け取ることで、学年の実態を自分なりに考え、自分は学年や学級に貢献できているだろうか、学年目標や学級目標にどれだけ近づいているのだろうかと考えるようになる。多くの生徒が残りの学校生活を充実させたいと考えるようになり、集団をよくしたい、最高学年としてしっかりしたいというリーダーの「思い」に応えたいと思うようになる。

### <手だてイ>

行事の振り返りや学年・全校集会の活動から学年目標達成のための取組や学年の課題を明らかにし、共有する場を設定する。

活動のねらいを踏まえ、学級や学年集団の目指す姿を共有し、多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行ううえで必要となることを見だし、課題解決に向けて意志決定をするという資質・能力を発揮するために行う。

行事の振り返りや学年委員の取組から、それまでの活動を学年目標の4つの柱（尊重 挑戦 自律 向上）にあてはめて、よさと課題を見いだす活動を行う。生徒は学年の共通の課題を見いだすことになる。

また、生徒会の活動で学年PRを行う機会を設ける。各学年のPRを見て生徒憲章の「自

\*2 演劇三役とは演劇活動全体を統括する総監督、助監督、脚本係長を指す。

主独立・協同」「私たちの目指す附中生」という大きな目標からよりよい姿を意識させる。そこで学年委員から3年生として、後輩によりよい活動の方法を残していくことをうながし、各学級にそれぞれの学級での取組で効果的な活動や方法を紹介してほしいと依頼をする。その際、生徒憲章、学年目標、学級目標を意識させることで改めて日常での自分たちの活動を振り返り、本当に効果のある活動を行っているのだろうか、さらにより活動にする方法があるのだろうかという問題意識が醸成され、下記の課題を見いだす。

#### <本単元における課題>

目指す姿につながる効果的な活動とはどのような活動なのだろうか。

#### <手だてウ>

PDCA サイクルの C の視点を明確にして、アンケート、情報収集（インタビュー）、思考ツール、写真、動画などで記録を取り、記録からよさと課題を分析し、活動の改善と修正を行う話し合いの場を設定する。

困難や問題に直面した際に、それらを克服したり、方針や計画の修正を図ったりして状況に対応しようとするという資質・能力を発揮させるために行う。

1学期の中間振り返りを経て、PDCA サイクルの A（アクション）が始まっている。その A（アクション）が効果があるかどうかを検証するために、改めて、C（チェック）が重要になってくる。1学期の活動で呼びかけてもうまくいかないという課題に対して、多様な立場や意見の異なる相手と協働するためにどうすればよいのかという情報を集め、記録をとり、有効な働き掛けや活動は何かを合意していく。想定される C（チェック）の視点は次の通りである。

- ・ リーダーの思いは伝わっているか。（思考ツール・動画・広報紙）
- ・ 活動に参加したいと思わせるにはどうすればよいのか（アンケート・インタビュー）
- ・ フォロワーは協力的か。多くの生徒が参加しているか。（思考ツール・動画）
- ・ 計画的に活動が行われているか。優先順位は守られているか。（思考ツール）
- ・ 時間通りに開始終了ができていないか。（動画・タイマー）
- ・ 参加者が楽しみながらやっているか。（写真・動画）
- ・ 参加者の声が反映され、課題が明らかになり、解決しているか。（思考ツール・動画）
- ・ 学級に貢献している活動に承認をしているか。（広報紙・動画）
- ・ 一人一人の個性やよさに合った活動が展開されているか。（広報紙・動画）

これらの視点から生徒はどんな方法でどのように評価をするとよりよい活動になるか分析の方法を考える。各係が課題を明らかにして、課題解決のための話し合いを行い、活動の合意形成を図る。

#### <手だてエ>

学級活動・係活動のよさを紹介する学級PRポスターを制作し、学年に効果的な活動や方法を提案する活動を組織する。

日常の生活や自己のあり方を一人一人が自覚と責任に基づき、主体的に取り組み、多様

な他者と協力しながら人間関係や日常生活の改善を図ろうとする資質・能力を発揮させるために行う。

学年委員の依頼から、学級の取組を紹介するために各係ごとにプレゼンテーション<sup>\*1</sup>を制作し発表する活動を設定する。プレゼンテーションを制作するために、活動を始める前と途中経過、結果を意識させ、どのような取組が効果があったのか、どうして効果があったと言えるのかを事実を基に分析し、紹介させる。そのための事実となる多くの情報や生徒の声を集め、整理させる。各係の発表後、学級目標の目指す姿と自分たちの活動がどうかかかわっていたのかを考えることで、効果的な活動や方法について共通点や相違点を見だし、効果の高い活動を再評価する。また、自分たちの課題を再認識し、共通点や相違点を整理することでうまくいっていないからこそどうすればよかったのかを考えるようになる。

これにより、各係が単元最初のそれぞれの係の特質や思による活動や方法が、単元末では学級全体のよさや課題と目指す姿とが関連付けられ、学年に伝えるべき効果的な活動や方法を見だし、生活の改善を図ろうとする。この姿こそ、資質・能力が高まった姿そのものととらえる。

#### <引用・参考文献>

- 文部科学省 2017 学習指導要領解説特別活動編  
藤田晃之編著 2017 中学校新学習指導要領の展開 特別活動編 明治図書  
太田 肇 2007 承認欲求「認められたい」をどう活かすか 東洋経済

---

\*1 プレゼンテーション

情報伝達的手段として今回はポスターを制作して行った。視覚的な効果を期待して一部表計算ソフトやプレゼン用ソフトを活用した。

6 題材の構想 (全10時間 本時 9 / 10)

	生徒の意識	学習活動・学習内容	教師の支援・指導	評価の観点・評価の手法
<p>目的意識 最高学年として育みたい 演劇を成功させたい 学年を良くしたい。行事と日常をつなげて課題を解決したい 学年のよさを他学年に紹介したい もっと学年をよくしたい 学級をもっとよくするための方 法を考 えたい 取組は上手くいくだろうか 自分たちの活動を学年に提案したい 学年の課題や学年目標の柱をふまえて活動を提案したい</p>		<p>① 1学期の活動を継続する。</p> <p>① 演劇三役 学年委員がそれぞれの立場で思いを語ったり活動を振り返ったりする。</p> <p>② 演劇の中間振り返りを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>事実を集める。</li> <li>事実から課題を明らかにする。</li> <li>改善点を話し合う。</li> </ul> <p>③ 演劇と日常の係活動を振り返り、課題を明らかにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学年目標の4つの柱をあてはめてよさと課題を考える。</li> <li>横告紙をグループごとに付せんを貼ってまとめる。</li> </ul> <p>④ 学年委員が学年のよさをまとめてプレゼンを行う。</p> <p>⑤ 学年委員から行事の課題と日常の課題を投げかけ、学級の良い取組を紹介してほしいと各学級に依頼する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学年目標を振り返りつつ、学年の活動から学級の活動へとつなげる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【本題材における課題】 目指す姿につながる効果的な活動とはどのような活動なのだろうか。</p> </div> <p>⑥ 学年目標と柱にも関連付けながらPDCAサイクルのC(チェック)の視点を明確にして日常の学級活動について学期に設定したC(チェック)項目をより高い課題で再修正する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>実態把握を行う。</li> <li>実態把握に即して、活動を修正し、(チェック)項目を見直す。</li> </ul> <p>⑦ 活動を試行し、データを蓄積し、活動の改善と修正を行う。</p> <p>⑧ 学級PRのプレゼンを各係ごとに制作する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>最初はどうだったのか。</li> <li>どんな取組をしたのか。</li> <li>学級がどう変わったのか。</li> <li>これらからどうするか。</li> </ul> <p>⑨ 学級PRプレゼンを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学級PRプレゼンを発表する中で自分たちの活動を振り返り、どの係の取組が効果が高いのか考える。</li> </ul> <p>⑩ 学年に提案する内容を検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各班の取組の共通点や相違点を整理することで、効果の高い活動や上手くいかなかった活動を再評価して、学年に伝えるべき内容を決める。</li> </ul> <p>⑪ 学年朝会で代表がプレゼンを行う。</p>	<p>○ 学級目標の振り返りを基にした取組を継続する。</p> <p>○ 学年朝会を利用し、学年目標について語ったり、学級の実態を踏まえて思いを語ったりする場を設定する。</p> <p style="text-align: right;"><b>手だて7</b></p> <p>○ 事実を基に演劇三役の実態を分析させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>これまでで活用したツールをリーダーに選択させる。</li> <li>広報系で客観的な評価をさせる。</li> </ul> <p>○ 演劇後の学活や学年朝会を利用し、学年目標に基づいて、自分たちの活動を振り返らせる。</p> <p style="text-align: right;"><b>手だて1</b></p> <p>○ 生徒会の企画で「学年PR」を行う場を設定する。</p> <p>○ 学年委員に「学年PR」が最高学年としてふさわしい内容かを問い、学年の課題を再認識させる。</p> <p style="text-align: right;"><b>手だて1</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学級ごとの文化を大切にしながらそれぞれの取組のよさを再認識させる活動を組織する。</li> <li>学級で形骸化・形式化している活動を見直す機会とする。</li> <li>行事の課題を日常に反映させるための取組のアイデアを学級の活動で求める。</li> </ul> <p>○ 学級の各係の取組を学年目標の柱とも関連付けて、C(チェック)の視点をもたせる。</p> <p style="text-align: right;"><b>手だて9</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分たちの活動の方法を見直すための視点を持たせる。</li> <li>よい取組を評価し、うまくいっていない取組を修正して、C(チェック)項目を改めさせる。</li> </ul> <p>○ 活動を試行させ、C(チェック)させる。</p> <p style="text-align: right;"><b>手だて9</b></p> <p>○ 学年委員と連携し、プレゼンの制作を提案する。</p> <p style="text-align: right;"><b>手だて10</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各係の取組の成果をまとめさせる。</li> <li>特に学年の課題に効果的な取組を学年に提案することを伝える。</li> </ul> <p>○ 学級PRのプレゼンを発表する場を設定する。</p> <p style="text-align: right;"><b>手だて10</b></p> <p>○ どの活動や方法が学年に提案するべきなのか合意形成を図る。</p> <p style="text-align: right;"><b>手だて10</b></p> <p>○ 学年朝会で提案させる。</p>	<p>【知技】 観察</p> <p>【知技】 観察・各ツール</p> <p>【思判表】 タブレット・顕微鏡</p> <p>【思判表】 タブレット端末</p> <p>【思判表】 ワークシート・横告紙</p> <p>【思判表】 タブレット、ワークシート</p> <p>【思判表】 プレゼン、観察、ワークシート</p> <p>【主観】 観察</p>

## 7 本時授業案

### (1) 前時までの学習を終えた生徒の姿

- 1学期の活動をチェックし、活動の修正と実践を行っている。
- 行事や日常活動について、リーダーが思いを語ったり、様々な方法で情報を集めたりして、学級の活動をどうメタ認知し、検証するかを話し合っている。(学習活動①～④)
- 未解決な課題や新たに見いだした課題について評価する内容を決めている。(学習活動⑥)
- 係活動の評価の内容に基づいて評価方法をきめ、資料を収集している。(学習活動⑥⑦)
- 活動を試行し、活動の成果をポスターにまとめている。(学習活動⑧)

### (2) 本時のねらい

プレゼンの発表を行い、目指す姿につながるかどうかを踏まえ、相互評価や検討を行うことを通して、よさや課題を見いだし、解決するための効果的な活動や方法を検討することができる。

### (3) 評価基準

#### ○ 評価の観点 思考・判断・表現

A	B
集めた資料を基に日常活動を分析し、発表することを通して、目指す姿につながるかどうかを考えながら、相互評価を行い、学年に提案すべき内容について、事実に基づいて検討し、統合して整理したり、再評価したりして、合意形成を行うことができる。	集めた資料を基に日常活動を分析し、発表することを通して、目指す姿につながるかどうかを考えながら、相互評価を行い、学年に提案すべき内容について、事実に基づいて検討することができる。

### (4) 本時の展開

学習活動・予想される生徒の反応	教師の支援・指導 ■ 評価の観点・方法
<p>① 各係のプレゼンを紹介する。(各係3分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 担当、各係が集めた資料を基に、班ごとに各係の取組を紹介する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各係の取組の成果と効果的な活動方法をポスター紹介する。</li> <li>・ 必要に応じてスクリーンに映したり実物を用意したりする。(写真やグラフ、使用した道具など)</li> </ul> </li> </ul> <p><b>評価の視点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実態分析</li> <li>・ 活動の手軽さ(準備の作業量や時間)</li> <li>・ アイデア(独自性や意外な視点)</li> <li>・ 成果(どう変わったのか、変わらなかったのか)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ プレゼンを用意させる。</li> <li>○ 係活動ごとに4人班をつくり班ごとに座っている。</li> <li>○ 議事進行係に司会進行させる。</li> <li>○ 担任は助言者の席に座る。</li> <li>○ プリントを配布し、各係の取組を評価させる。</li> </ul>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学級目標にどれだけ迫れたのか</li> <li>・ 気付いたこと</li> </ul>																			
<p>② 各係のプレゼンの発表から、それぞれの取組について事実を基に評価する。</p> <p>○ 事実を基に、各係で意見を出し合い、班用のホワイトボードにまとめる。</p> <p>【予想される会話の具体】</p> <p>○ 司会 1人，記録 1人</p>	<p>○ 4人1グループの係ごとにホワイトボードを配布し、効果的な取組について、班ごと整理させる。議事進行係が次の指示を出す。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>&lt;指示&gt;</p> <p>それぞれの発表を聞いて効果の高くなる活動や方法にはどのような共通点や相違点がありますか。話し合って整理して下さい。</p> <p>また、あまり効果が出なかった活動や方法から見えてくる共通点や相違点も整理して下さい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 議事進行係は様子を見ながら、必要に応じて担任と打ち合わせる。</li> </ul> </div>																		
<table border="1"> <tr> <td style="width: 15%;">司会</td> <td>効果が高いと思った活動や方法の共通点と相違点って何だと思いますか。</td> </tr> <tr> <td>生徒 A</td> <td>予定連絡係と給食係は活動が見やすかった。</td> </tr> <tr> <td>生徒 B</td> <td>そうだね。黒板に次の給食当番を書いたり，翌日の授業を見やすいように2箇所に示したりしてたよね。</td> </tr> <tr> <td>司会</td> <td>そういうの他にもなかった？</td> </tr> <tr> <td>生徒 C</td> <td>集配係も集配物の提出状況を表にしていたよね。でも，あんまりうまくいってなかったよ。</td> </tr> <tr> <td>司会</td> <td>どうして集配係の活動はうまくいかなかったんだろう？</td> </tr> <tr> <td>生徒 A</td> <td>集配係はあんまり目立ってなかったよ。それにチェックは各自に任せていたしね。</td> </tr> <tr> <td>生徒 B</td> <td>可視化しても，相手に伝わらないと，連絡が不十分になってあまり意味が無いかもね。</td> </tr> <tr> <td>司会</td> <td>可視化をするという方法は有効だけど，目立つように書いたり，相手に伝わるようにしたりしないと効果は出ないんだね。</td> </tr> </table>	司会	効果が高いと思った活動や方法の共通点と相違点って何だと思いますか。	生徒 A	予定連絡係と給食係は活動が見やすかった。	生徒 B	そうだね。黒板に次の給食当番を書いたり，翌日の授業を見やすいように2箇所に示したりしてたよね。	司会	そういうの他にもなかった？	生徒 C	集配係も集配物の提出状況を表にしていたよね。でも，あんまりうまくいってなかったよ。	司会	どうして集配係の活動はうまくいかなかったんだろう？	生徒 A	集配係はあんまり目立ってなかったよ。それにチェックは各自に任せていたしね。	生徒 B	可視化しても，相手に伝わらないと，連絡が不十分になってあまり意味が無いかもね。	司会	可視化をするという方法は有効だけど，目立つように書いたり，相手に伝わるようにしたりしないと効果は出ないんだね。	
司会	効果が高いと思った活動や方法の共通点と相違点って何だと思いますか。																		
生徒 A	予定連絡係と給食係は活動が見やすかった。																		
生徒 B	そうだね。黒板に次の給食当番を書いたり，翌日の授業を見やすいように2箇所に示したりしてたよね。																		
司会	そういうの他にもなかった？																		
生徒 C	集配係も集配物の提出状況を表にしていたよね。でも，あんまりうまくいってなかったよ。																		
司会	どうして集配係の活動はうまくいかなかったんだろう？																		
生徒 A	集配係はあんまり目立ってなかったよ。それにチェックは各自に任せていたしね。																		
生徒 B	可視化しても，相手に伝わらないと，連絡が不十分になってあまり意味が無いかもね。																		
司会	可視化をするという方法は有効だけど，目立つように書いたり，相手に伝わるようにしたりしないと効果は出ないんだね。																		
<p>○ 生徒は活動や方法を共通点と相違点という比較から分類したり，効果の違いに気付いたりしていく。</p> <p>○ うまくいかない活動は，改善しようという思いが足りなかったり，学級の実態に沿った活動でなかったりすることに気が始める。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 評価の観点：試行・判断・表現</li> <li>■ 評価方法：ホワイトボードの記述内容</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業者は班を回って，助言を行う。</li> <li>・ 時間のコントロールを議事進行係と一緒に行う。</li> </ul> </div>																		
<p>③ 学級PRとして学年に提案する内容を係ごとで話し合う</p> <p>○ 学級目標の目指す姿にあてはめながら，効果を踏まえ，どの活動を提案するべきか考える。</p>	<p>○ 各係で共通点，相違点が見いだせたら議事進行係が次の指示を出す。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>&lt;指示&gt;</p> <p>学級 PR として学年に伝えるべき内容は何だと思いますか。班で話合って提案して下さい。</p> </div>																		

【予想される会話の具体】

○ 司会 1 人, 記録 1 人

司会	何を提案すればいいと思う？
生徒 A	活動としては視覚化をして、相手に伝えることが有効だね。
生徒 B	確かに、でもそれだけじゃダメだね。相手のことを考えて、伝えることが大切だね。ただ、示しても伝わらなければやってる意味がないし。
生徒 C	そうだね。あと、実態をしっかりと把握することが大切だと思う。周りが望んでいないのにやっても大変なだけで効果が無いし、かえって嫌な思いをしている人もいるみたい。
生徒 A	こっちがやりたいと思っても、周りがいいと思ってくれないと伝わらないしね。今まで、自分の周りことしか考えていなかったから、もっと皆の意見を聞いて活動できるといいね。
生徒 B	目指す姿の②全員が内容や目標を共有し考えて行動する姿ができてないから上手くいかないんだと思う。皆にしっかりと内容を共有して進めないとしても効果が薄いんだと思うよ。
司会	それじゃあ、周りの意見をしっかりと聞いて共有してから始めるという方法も提案した方がいいね。

- 授業者は助言として、学級目標の目指す姿の達成を目指して活動してきたこと、3年間中学校で生活してきたからこそ伝えるべきことは何かを考えることを促す
  - ・ ホワイトボードを使いながら、さらに整理する。

④ 話し合いの結果を班の意見として提案する。

- ・ ホワイトボードに議事進行の書記は整理する。
- ・ 必要に応じてパソコンに意見を打ち込みスクリーンに映す。

⑤ 学年で紹介する取組を合意形成する。

- ・ 議事進行係が学級とやり取りしながら、パソコンに意見を打ち込みスクリーンに映す。

- ・ 授業者は班を回って、助言を行う。

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 評価の観点：試行・判断・表現</li> <li>■ 評価方法：ホワイトボードの記述内容</li> </ul> |
|---|

- ・ 時間のコントロールを議事進行係と一緒に行う。
- 各係から学年に提案すべき活動や方法について意見を発表させる。
- 議事進行係が学級とやり取りして合意形成を図る。
  - ・ 提案する内容は1つに絞らなくてもよい。
  - ・ 関連する提案は統合してもよい。